

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)南吹田物流施設計画 新築	階数	地上5F
建設地	大阪府吹田市南吹田	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	819 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年11月 予定	評価の実施日	2023年9月25日
敷地面積	34,826 m ²	作成者	廣瀬 智之
建築面積	18,365 m ²	確認日	2023年9月25日
延床面積	85,894 m ²	確認者	廣瀬 智之



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合	省エネ性能の高い計画とし、地球温暖化防止に努めている。	その他 特になし。
Q1 室内環境	ほぼ全面にF☆☆☆☆を採用し、室内環境の向上を図っている。	Q3 室外環境(敷地内) 緑あふれる計画とし、敷地内温熱環境を抑制している。
LR1 エネルギー	建物外皮の熱負荷抑制し、設備システムの高効率化に努めている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を抑制し、地球温暖化への配慮をしている。 適切な量の駐輪場・駐車場を確保している。
Q2 サービス性能	配管の更新必要間隔や階高のゆとりを配慮することにより、耐用性や更新性を高めている。	
LR2 資源・マテリアル	標準的な計画としている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	(仮称)南吹田物流施設計画 新築工事					
	建設地	大阪府吹田市南吹田					
	用途/区分	工場 事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					5	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	5.0	5
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない
その他			
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項	
特に配慮した事項	太陽光発電設備を導入することにより設備システムの高効率化に努めている。		